中学生が「税」を作文に

大崎地区 最優秀賞は藤倉さん（古川黎明3年）

「2010年第44回中学生の『税についての作文』大崎地区表彰式が11月24日、県大崎合同庁舎で開かれ、入賞者13人に表彰状が授与された。

納税功労者14人と一緒に行われた表彰式では、大崎地区納税貯蓄組合連合会の佐藤清次会長が一人一人へ表彰状を手渡した。

大崎地区納税貯蓄組合連合会最優秀賞を受賞した藤倉由佳さん（古川黎明3年）の作品「税金のサイクル」は、全国納税貯蓄連合会の審査で東北地区納税貯蓄組合連合会長賞にも選ばれ、表彰状が伝達された。また、特に応募者が多かった古川黎明中にも、全国連合会長から感謝状が贈られた。

来賓として出席した古川税務署の母良田政典署長、県北部県税事務所の浅野目清志所長、岩渕義教県議も「今回の入賞を機に、税に対する関心を一層高めてください」などと祝辞。最後に藤倉さんが作品を朗読した。

同作文は、全国納税貯蓄組合連合会が中学生を対象に毎年募集している。大崎地方は9校から204作品の応募があった。

藤倉さん以外の入賞者は次の通り。（敬称略）

▽大崎地区納税貯蓄組合連合会長賞＝「税の必要性」我妻佳奈（古川北3年）▽古川税務署長賞＝「税金と社会」小高優子（古川黎明3年）、「将来への貯金」豊嶋咲（古川北3年）▽北部県税事務所長賞＝「たくさんの笑顔を届けるために」今野和樺（古川黎明3年）▽優秀賞＝「税について」鈴木拓哉（古川南3年）、「税と共に」佐々木華枝（古川北3年）、「税金の使われ方」鈴木鳳晟（古川南3年）、「税について」今野みちる（古川西1年）、「消費税の利益」丸谷知正（不動堂3年）、「消費税について」尾形英里子（小牛田3年）、「税金について」森誠人（南郷3年）、「税について考える」片倉真希（古川東3年）

作品を朗読する最優秀賞の藤倉さん

「税金のサイクル」

古川黎明中3年 藤倉由佳

来年から、私の住んでいる宮城県の個人県民税に新たな税が課税される。その名も「みやぎ環境税」。

まず課税額だが、個人では年額千二百円で、単純計算では月百円という払えない額ではないということが分かった。

そして、集められたお金は主に、森林を良好な状態に保つための資金、クリーンエネルギー（太陽光パネルなど）普及のための補助金、環境教育推進のための資金に使われるということも分かった。

「家に太陽光パネルつけないの？」と、ここまで調べて、私は母との会話を思い出していた。小学生の時である。学校の授業でパネルの可能性を知り、「私の家、日当たり良いし」と考えての発言だった。しかし、その時は「お金ないから」と母に言われ、そのままパネルの話は立ち消えになってしまったのである。今まで、同じように「お金ないから」とパネルをあきらめた家庭が他にもあると思う。

同作文は、全国納税貯蓄組合連合会が中学生を対象に毎年募集している。大崎地方は9校から204作品の応募があった。

藤倉さん以外の入賞者は次の通り。（敬称略）

▽大崎地区納税貯蓄組合連合会長賞＝「税

作品を朗読する最優秀賞の藤倉さん

「税金のサイクル」

古川黎明中3年 藤倉 由佳

来年から、私の住んでいる宮城県の個人県民税に新たな税が課税される。その名も「みやぎ環境税」。

まず課税額だが、個人では年額千二百円で、単純計算では月百円という払えない額ではないということが分かった。

そして、集められたお金は主に、森林を良好な状態に保つための資金、クリーンエネルギー（太陽光パネルなど）普及のための補助金、環境教育推進のための資金に使われるということも分かった。

「家に太陽光パネルつけないの？」と、ここまで調べて、私は母との会話を思い出していた。小学生の時である。学校の授業でパネルの可能性を知り、「私の家、日当たり良いし」と考えての発言だった。しかし、その時は「お金ないから」と母に言われ、そのままパネルの話は立ち消えになってしまったのである。今まで、同じように「お金ないから」とパネルをあきらめた家庭が他にもあると思う。

同作文は、全国納税貯蓄組合連合会が中学生を対象に毎年募集している。大崎地方は9校から204作品の応募があった。

藤倉さん以外の入賞者は次の通り。（敬称略）

▽大崎地区納税貯蓄組合連合会長賞＝「税金はめぐり、お金としてであったり、良い環境、良い制度であったりして私達にかえってくる。まさに、税金のサイクル。納税は決して損ではない。すてきで重要なことだ。そんな大切なサイクルを、壊さず受け継ぐためにも、私達はしっかりと税金のことを理解することに気づいた。

税金はめぐり、お金がない、という問題はかなり解消されるはずだ。そして、多くの家庭にパネルが取り付けられていく。

そのように、私達の千二百円という小さな努力は、快適な生活として私達自身に返ってくる。「みやぎ環境税」がもたらすことは、それだけではない。宮城県の森林を良い状態で将来へ送ることや、それを預かるであろう子供達の環境に対する考えを高めることなど、私達個人ではできない公共のことがさらに活発に行えるようになるのだ。

そのように、税金は結局は私達の元へと良い形で戻ってくる。今回の「みやぎ環境税」の、森林を良好な状態に保つための資金も、私達には一見何も利益がないように見えて、実は私達の将来に大きな利益をもたらしているのだ。このことは、私達が払っている他の税金にも同じことが言える。例えば、地域にある市民病院や交番、町を救助に走る救急車、私達がより快適で安全に生活するためには、絶対にかかせないものばかりだ。そして、それらの建設費などは、私達が払った税金でまかなわれている。税金は、公共施設や公共サービスとして、私達の生活を支えてくれているのだ。

しかし、私達は普段そのことを曖昧にしかとらえられていない。それどころか、税金を払うことを損と考えている人もいる。私も以前までは、そのように思っていた。けれど、私は今回「みやぎ環境税」を通じて税金を考えることで、その考えは誤った考えだということ